

## 卯月

今年も早いもので、4月になりました。

私のような年齢になると、季節の移ろいは、まるで駆け足しているように早く感じます。

4月ともなると、空気もぬるみ始め、周りの雪も一気に消えていきます。

4月は、様々なものが変化する季節でもあります。社会人一年生が、リクルートスタイルで歩いている姿は、初々しく感じます。

初々しいといえば、幼稚園や小中学校などでも入学式が行われますが、どの子を見ても新しい衣装に身を包み、晴れがましく見えます。

入学児母をはなれて列にあり 静子

今まで甘えん坊だった我が子が、今日は入学式。緊張しながらも他の子と一緒に整列している。そんな我が子の姿を眩しげに見ている母親の、温かな目線を感じます。

仕事の上でも、4月は新しい年度のスタートで、なんとなく「御破算で願いましては」という気分になりますし、人事異動もあり、体制も変わりますから、気分も一新というところですよ。

また春は、重苦しい雪雲からも開放され、太陽の光さえ冬とは違って、エネルギーの高まりを感じます。生き物達の息づく季節、といたら良いでしょうか。

4月は英語でAprilといいますね。このAprilは、ラテン語のAprils（開く）から来ているといわれています。即ち、花が開く美しい季節という程の意味ですが、北海道に住んでいると、その季節感はぴったりときます。勿論他にも説があって、ギリシャの美しい女神Aphrodite（アフロディーテ）に捧げる月という意味もあるそうですが、その位、4月は美しい季節ということなのですね。

ところで、日本では、4月のことを「卯月」といいます。

「卯月」のいわれは諸説ありますが、卯の花の咲く月「卯の花月」を略した

ものというのが定説となっています。しかし、考えてみると、卯の花の咲く頃と4月とは結びつきません。

「卯の花の匂う垣根に、ホトトギス早も来鳴きて、忍音もらす夏は来ぬ。」

これは、皆さん良くご存知の「夏は来ぬ」という歌の歌詞ですが、これを見ても分かるように、卯の花は夏の季語なのです。

このようなずれが生じるのは、「卯月」が旧暦の4月を指す言葉だからで、太陽暦の4月とは一緒ではないのです。

今年の4月1日は、旧暦ではまだ3月11日に過ぎません。4月30日でも旧暦ではまだ4月に入っておらず、閏3月の10日となっています。それでは、旧暦では4月はいつかということ、何と5月の21日です。なる程、これだと卯の花が夏の季語であるのも頷けます。

また、旧暦の4月1日は衣替えといわれていますが、昔の人は、4月1日になると綿入れの着物から綿を抜いたのだそうです。それで4月1日を4月朔日（わたぬき）というようになったそうですが、判じ物風で面白いですね。

全国各地からは、桜の便りが届き始めました。また、大通り公園を歩いていると、花壇では花の芽が顔を出しており、本格的な春の訪れを告げているようです。

身も心も冬物から夏物に替え、名実共に「卯の花月」を感じる日もそう遠くはありません。（塾頭 吉田 洋一）